

持続可能な水田農業を支える「大崎耕土」の伝統的水管理システム



～厳しい自然環境が洗練された農業システムをつくりあげた～

大崎耕土
世界農業遺産



日本農業遺産

平成29年3月認定

世界農業遺産

平成29年12月認定

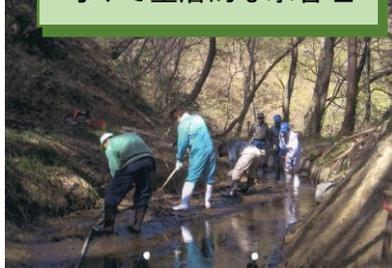
宮城県大崎地域

宮城県大崎地域は、東北の太平洋側に特有の冷たく湿った季節風の「やませ」による冷害や地形的要因による洪水や渇水を克服するため、水路やため池などの水管理のシステムが発達しています。厳しい農業条件の中で育まれた豊穡を祈る農耕儀礼などの農文化や、「居久根（いぐね）」と呼ばれる屋敷林などの景観が特徴です。



宮城県大崎市
色麻町
加美町
涌谷町
美里町

巧みで重層的な水管理



「やませ」による冷害や洪水、渇水が頻発する三重苦の自然条件下で、農家主体の水管理体制によって巧みな水管理がなされてきました。

生物多様性を育む持続可能な水田農業



重要な湿地環境である水田は、生物多様性の保全に貢献し、自然と共生する農業を実現しています。

流域全体に広がる水管理基盤（取水堰、隧道・潜穴、ため池等）



豊かな農村景観



生活の知恵が詰まった屋敷林「居久根」と水田、水路が織り成す独特の農村景観が形作られています。

農業と結びついた伝統的な農文化



水源地である奥羽山脈の山々への民間信仰、豊穡への祈りや感謝を表す農耕儀礼・民俗芸能、餅食などの郷土食を生み出しました。

世界・日本農業遺産認定による効果

農林水産業の振興

ブランド認証制度による価値の共有と持続的農業の推進

- 豊饒の大地「大崎耕土」世界農業遺産ブランド認証制度による世界農業遺産の保全と活用に向けた価値の明確化
- 認証品の特長や特性をしっかりと伝え、地域内外の消費者の共感を得ることで、販路拡大
- 都市部の住民との交流を通して、互いの顔の見える関係を構築し、消費者と農村コミュニティ、農家が支えあうCSA (Community Supported Agriculture)の実践拡大
- 新規就農者へのフォローアップ、各種支援制度の情報提供や多様な人材との交流を通じて、農業の担い手確保

農業と生物多様性の共生

- 自然共生型農業の拡大による農業生物多様性の保全上の効果を評価し、水田をはじめとする湿地生態系の価値を共有するモニタリング調査手法を普及促進
- 環境負荷の軽減や生物多様性の保全を進めるため、水田の土着性天敵等を活用した有機栽培技術等の普及拡大



▲ブランド認証品カタログ



▲米ブランド認証農家によるモニタリング調査



▲多くの鳥たちでにぎわう水路と水田

- 豊饒の大地「大崎耕土」世界農業遺産ブランド認証件数：-(H28)→407件(R3)→**521件(R4)**
- 6次産業化商品の開発件数：-(H28)→19件(R2)→**7件(R4)**
- 伝統野菜の栽培面積：0.2ha (H28)→0.64ha (R2)→**0.74ha(R4)**
- CSA交流人口：-(H28)→460人(R2)→**846人(R4)**
- 新規就農者数(認定後5年累計)：39名(H28)→194名(R2)→**357名(R4)**
- 農業大学校・農業高校等への世界農業遺産に関する講義：7件(R3)→**36件(R4)**
- 生きものモニタリング手法普及(米ブランド認証農家)：-(H28)→378件(R3)→**443件(R4)**
- 有機JAS認証取得面積：190ha (R2)→185ha(R4)

次世代への継承

知識システムと農耕文化・価値観の継承

- 深水管理や堆肥による土づくり等伝統的な農法と水管理技術継承

- 田んぼダムなどグリーンインフラを活用した取組推進により、自然災害に対する農村防災力向上

未来に伝え、支える人材の育成

- 地域の子供が参加するプログラムを実施することで、農業システムと地域環境を支える人々の営みの価値継承
- 人材育成の推進による農業の知恵の継承と価値の共有

- 栽培技術講習受講者数：-(H28)→2,419人(R2)→**3,186人(R4)**
- 田んぼダム実施面積：357ha (R3)→**892ha(R4)**
- おおさき生きものクラブ参加者数：169人(H28)→280人(R3)→**165人(R4)**
- 語り部育成人数：-(H28)→48人(R3)→**142人(R4)**
- 食文化普及イベント参加者数：588人(R3)→**1,907人(R4)**
- 農耕文化の担い手間の交流機会の創出：-(R2)→**3回(R4)**
- 世界農業遺産「大崎耕土」副読本配布部数：-(H28)→**累計13,000部(R4時点)**



▲現代版巧みな水管理「田んぼダム」



▲おおさき生きものクラブの活動

ランドスケープの保全と活用

フィールドミュージアム構想の推進

- 世界農業遺産認定により明確化された価値を魅力的に発信し、多様な資源を巡るツーリズムを核として交流人口拡大
- 地域が育むストーリーに共感し、「自分ごと」として捉える企業や関係人口を創出



▲「居久根」の保全活動



▲おおさきGIAHS・SDGsパートナー

- 居久根に対する保全支援件数：3件(R3)→**8件(R4)**
- 企業等による居久根保全件数：-(R3)→**2件(R4)**
- GIAHSツーリズム参加者数：-(R3)→**317人(R4)**
- おおさきGIAHS・SDGsパートナー登録件数：-(R3)→**37件(R6)**